

『海紅』（山崎聰第一句集）より

男光りいてあじさいの紺ばかり
鮑うごく桜見てきしにんげんに
とかげの眼暗澹とあり日曜日
明日ありて燕返しに銀の海
朝がきて踊子草を跳ぶ別れ
坂の道このごろ曇り八重桜
生きており五月の椎の暗い森
夜の川を棺がとおり梨の花
花朴のころ音消えて山と川
山ふくれ死は六月の風の中

松村五月抄出